

PM 16:30  
帰院、院内ミーティング



各医師が、この日に訪問した患者さんの状態や診療の内容、今後の見通しなどについて報告。それぞれがしっかりとメモを取るなど、情報共有を重視する同クリニックの姿勢が垣間見えるシーンでもある。

PM 17:00  
残務整理、メール対応など

PM 18:00  
帰宅



Epilogue  
看取りへの思い入れと“いのちの教育”

「在宅医である以上、最期まで任せていただいたということに、最も誇りを感じます。信頼関係を築き、最期まで支え続けてこそ在宅医だと思うのです」

石賀先生は看取りに強烈なまでの思い入れを持つ。看取りが「最期まで任せていただいた」証であるからだ。開業直後の1年間の在宅看取り数は69。それからわずか6年、2014年11月からの1年間は、その4倍以上の300名を看取った。在宅看取り率は83%、がん患者に限れば90%を超える。

「家族、とくに子どもたちに臨死の場面に立ち会ってほしい。現場で“いのちの教育”をしたい」という思いも、石賀先生が看取りにこだわる理由の1つだ。国内の現状を俯瞰すれば、病院で最期を迎えるケースが圧倒的多数を占め、かつてあった家で看取るという文化は衰退し、看取り経験のない家族は増え続けている。

「写真(右)は患者さんが亡くなられる数時間前に撮影したものです。死とそこに至る過程についてきちんと説明していれば、[きょうでお別れだからね]と告げても、子どもたちから笑顔が失われることはありません。このときは、口を拭う係、足を揉む係など、個々に役割を与えて、看取りまでの時間を過ごしてもらいました」



看取りへの理解が深まっていれば、別れが間近に迫っていても、子どもたちが悲しみに暮れたり、不安に駆られることはない

Point6  
ミーティングで、患者イメージを共有

同クリニックでは、朝夕のミーティングを毎日欠かさず行っている。朝は15分程度で当番医が前夜の対応を、夕方は30~60分かけ、その日に訪問したすべての患者さんについて、病状や行った処置、交わした会話の内容などについて報告する。

石賀先生は「時間はわずかであっても、ミーティングは毎日行うことに意義があると私たちは考えています」と言う。たとえば、病状が安定せず、いつ呼び出しの電話があっても不思議ではない患者さんに関しては、頻りに報告が上がってくる。「その患者さんの担当ではない医師でも、毎日のように報告を受けていれば、療養の経過がストーリーとしてつながり、自然と記憶されます。自分が当番のときに往診依頼があっても、どこに住むどんな患者さんか、どういう状態か、すぐにイメージできるのです」。こうした情報が事前に頭に入っていれば、訪問後も迅速かつ適切な対応が可能になる。また、普段とは別の医師が駆けつけたとしても、患者さんや家族が不安を感じることもない。

将来、この子どもたちが在宅医療に、自宅で看取ること、不安や抵抗を感じることは、おそらくないだろう。“いのちの教育”を重ねれば、看取りの文化が再び醸成され、自宅での看取りを増やすことにつながるはずだ。

また、こうした経験をした子どもたちは、命の大切さ、尊さを知る。人を傷つけることに抵抗感を持たない若者が増え、犯罪の低年齢化が進む昨今の状況に歯止めをかけるという視点からも、“いのちの教育”の持つ意義は大きい。

亡くなる前日まで麻雀を楽しんでいた男性、余命数日と宣言されながらも、自宅に戻り輝くような4カ月を過ごした青年……この日、石賀先生は看取りにまつわる数々のエピソードを語ってくれた。その眼差しは、心に残った出来事を少し興奮しながら母親に報告する子どものように透明だった。揺るぎない信念に基づいて在宅患者を支え続けて6年、力をもらっているのは、案外、石賀先生のほうなのかもしれない。希望を、笑顔を絶やさずに生き抜く患者さんの、そしてそれを支える家族の姿に。

# 看護師だより



Kさんとお会いしたのは半年前。病院生活にピリオドを打ち住み慣れた家に帰ってこられました。Kさんは、肺を患っており、常時肺に管を入れた状態で、動くと呼吸が苦しくなるため、ベッド上での生活でした。気分が落ち込む時があっても前向きに1日1日を大切に過ごされていました。生まれは松阪で奥様とは同年代で高校時代に知り合ったそうです。仕事の関係で各地を転々とされ、特に山口県が、人も良く食べ物もおいしく住みやすかったそうです。リタイア後は緑の多い、閑静な菟野の地に家を建てられました。たまに野生のシカやサルなどが訪れる自然に溢れたお住まいで、奥様はパンやピザを作るのが好きで、ピザ釜もあり腕前はプロ顔負けです。掲載の写真は誕生日のお祝いの様子です。ご結婚されてからもうすぐ50年。仲睦まじく終始満面の笑みをみせていただき、こちらまで嬉しくなりました。人は笑うことで「キラ細胞」という元気の源が出てきます。病気を完治させることはできませんでしたが、毎日笑って病気がうまくなりまして、ご冥福をお祈りいたします。

## ペットギャラリー

患者さんのかわいいペットたちをご紹介します!  
「うちのペットも載せてほしい!」という方は是非教えて下さい!

 ジゲンくん♂1歳	 ももちゃん♀8歳	 チャータくん♂13歳	 ベルくん♂	 マロンちゃん
 ミーちゃん♀8歳	 ミーヤちゃん♀17歳	 ユエちゃん♀6歳	 レオくん♂14歳	 レンくん♂5歳